こおり未来会議

20歳が見つめる故郷こおり

今年度、20歳を迎えた町出身の男女4人と町長による座談会「こおり未来会議」が11月に行われました。それぞれの20年間を振り返りながら、将来の夢や町に対する思いなどを語り合いました。

将来の夢

（町長）今日集まられたみなさんは、全員が教育関係の仕事を目指しているとのことで、それぞれの目指すきっかけをお聞かせください。

（阿部）両親がどちらも教員であることと、高校時代の担任の先生の姿を見ているうちに、自分も教員になりたいと思うようになりました。

（大槻）当初は教員を目指していましたが、教員の労働問題が社会的に注目される中、教育行政の立場から教育に関わり、教員の労働環境整備に携わりたいと考えるようになりました。

（佐藤）震災当時、外出の機会が減り体力低下が課題となった世代でしたが、祖父母に山形などに連れて行ってもらい、気兼ねなく外遊びができました。その経験から体育が好きになり、小・中・高で出会った先生方の影響も受け、体育教師を志すようになりました。

（西村）人の話を聞くことが好きで、幼いころから友人の相談によく応じてきました。高校時代に人間関係で悩んだ際、スクールカウンセラーに相談し心が軽くなった経験から、今度は自分が悩む子どもたちを支えたいと考え、スクールカウンセラーを目指すようになりました。

（町長）町は今、少子化を見据えた教育大改革に着手し、小中学校の統合を検討しています。子どもは、家庭はもとより、地域、町の宝であり、教育への投資こそが未来をつくるという思いが、この町には根付いていると感じています。「先生」という存在は、子どもに大きな影響を与えます。そこを目指すみなさんには、ＩＣＴ教育など時代の変化と上手く向き合いながら、一人一人に寄り添える先生を目指してほしいです。

幼少期の町の印象・思い出

（佐藤）近所のおじいちゃんやおばあちゃんと交流する機会が多く、自然豊かなところが魅力でした。お祭りにも参加していましたし、こうした地域のつながりがこれからも続いてほしいです。

（西村）近所の方々が優しく、助けられた思い出がたくさんあります。諏訪神社例大祭が好きで、今でもお祭りに合わせて帰省しています。

（大槻）小学生の純粋な印象として、田んぼが多いなぁと…（笑）。通学路も田んぼの中を通っていたのでよく覚えています。芝生の校庭がある伊達崎小ではよく遊びました。またバーガーサミットなどはいつもワクワクしていました。

（阿部）子どもを大切にしてくれる町だと感じていました。震災時、炊き出しのおにぎりは子ども優先だったことを覚えています。陣屋の杜公園でボール投げの練習をしていると近所の方が教えてくれて、本当に優しい人が多いなと。また、桑折学習塾や電子黒板の導入、制服支給など教育や子育て支援が充実している点も印象に残っています。私も諏訪神社例大祭は毎年楽しみにしていました。

（町長）今年、町制施行70周年を記念して山車フェスを開催し、改めて「ふるさとは祭り」だと実感しました。町内全ての山車が集結し、町が一つになったと感じた方も多かったと思います。人の輪や地域の結束は大切な文化です。若い世代が地域社会に参画し、継承していってほしいと思います。

町の未来に期待すること

（大槻）今後も子どもたちが安心して育つことができる町であってほしいと思います。人の温かさや教育への手厚い投資が桑折の誇るべきところだと、町外に住んでみて改めて感じました。これからも続けてほしいと思います。

（西村）これまでどおり、子どもたちがのびのびと暮らせる町であり続けてほしいです。事件や事故がなく、安全に暮らしていける環境が保たれてほしいです。

（阿部）歴史遺産や特産物、文化施設、運動施設などに恵まれたとても魅力ある町だと感じています。これからも町の財産を生かして、より良い町づくりを続けてほしいと思います。

（佐藤）街灯が少なく、熊被害への不安を感じることがあるため、今後少しずつ整備が進むと良いと思います。また、屋内温水プールやふれあい公園といった快適な施設を生かし、子どもから高齢者まで楽しめるようなスポーツイベントの開催やホタルなどの自然を守る取り組みも実施してほしいと思います。私はこれからも桑折に住み続けて、子育てをしたいと思っているので、子ども世代へ継承できる事業やイベントを実施してほしいです。

（町長）まずは、「今までどおり」という言葉をいただき大変うれしく思います。もちろん大事なのは、今まで以上の町づくりを進めることです。「桑折で生まれてよかった、住んでいてよかった」と思える町を目指して、今後も邁進していきます。そのためには、隣近所でともに支え合う地域社会をつくることも大切で、特に若い世代の社会参画が重要だと考えています。隣近所や町内会での支え合いがあったうえで、行政として取り組まなければならないことは何かを見極め、自助・共助・公助の考えのもと、町づくりを進めていきます。行政に参画するのは決して難しいことではありません。例えば、イベントを開催するときのスタッフとして手を挙げていただくなど、身近な関わり方で十分です。みなさんが持っているスキルを町のために生かしていただきながら、より良い町をともに目指して築いていければ大変心強く思いますので、今後のみなさんの力に期待しています。